

広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	即興という言語操作性
Author(s)	市山, 仁美
Citation	児童の言語生態研究 , 6 : 16 - 22
Issue Date	1973-11-30
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00045066
Right	
Relation	



即興という言語操作性

市山仁美

人に話しかけられたり、文を読んだりしたときを分析すると、そのことばについて、まず状況を判断するであろう。そのとき、人は「そのことばによってあやつられる」といった状態におかれる。同時に、その答えを出すときには、「ことばをあやつる」ことによって、考えを表現するのだと考えてよいだろう。

この資料は、「ことばをあやつること」と「あやつられること」の谷間にあるものを拾い出し、その与えられた「場」をどうとりあげ、どう処理するか、その即興的とも見えるものの正体をみたいと考えた。

ことばにあやつられて出てきた状況の把握状態を、ことばをあやつることによって得た答えから推して、いくつかのパターンがあるか。

を、はっきりとつかみ出して、人間の言語の操作性を探っていきたいのである。

即興性ということ、「興」は、たのしい、おかしいなどを聞き手に感じさせるものである。「たのしい」「おかしい」というものは、状況把握がしつかり出来ており、さらに感情処理の方法がいろいろあることを知り、その中からよりびつたりのものを選び出し得たときに出てくるものであろう。

そのことから考えると、なんとか処理せざるを得ない場面を想定して、そ

の「間」のとり方にどんな種類が出てくるか。

一の問題は選択することなく場を与えられて状況把握から感情処理に移っていく過程を、二の問題では、一つの事実があって、立場をかえることによって、どう変化させ得るか。「比較の中のおもしろさ」をねらった。

能力されればある程度自由に表現できるものの、一の問題にくらべて、ずっと冷静であることを要求されるのではないか。すると、一つの立場しかとれない↓完全に二つの立場をとり得るもの等、子どもの反応はその能力に応じて相異なる差がでてくるものと思われる。

資料はおよその見当で番号と見出しをつけたが、単純↓複雑へ

問題一について①②③を枠外としてみるならば④以後は感情処理に移っていったものとして一まとめにすることもできるが、子どもの即興性をみる上にもどの種も同じだからといって一まとめにしたのでは、感情の受けとめ、処理の方法の進歩のあとがみにくくなるので一つの要素があればそれに、より複雑なものが増えればそれに、より複雑なものが加わればそれに、スポットをあてていく形で④以下の項目を作っていた。

資料

「ガチャーン」

父「こらーまたやったな、太郎」

げんこつをふりあげてとんでいく。ふりむいたのはとなりのむすことなりの子「あっおじさん。」

父「げんこつがぶじにさげられるように、「。」の中へ、ちょうどよいせりふを入れなさい。

二次の表をみて、ある中学についての新聞記事をかいてください。

- 45年度・中学校野球大会に参加
・高校入学率89%
- 46年度・中学校音楽コンクール器楽の部参加
・中学校野球大会上位15校内に入る
・よい歯のコンクール参加
- 47年度・よい歯のコンクール入賞
・中学校音楽コンクール器楽の部参加。県優秀10校に入る
・高校進学率90%をこえる

④この中学について、最高にほめる文をかいてください。見出しもつけて。

見出し「」

本文

②①と反対に、てつて的にけなし
た文をかいてください。見出しも
つけて。

見出し「
本文

一では状況把握の状態が似ているもの
をあつめてみた。特に複雑な要素をも
つものをあとにし単純なものを先きに
もってくるようにした。

①事実を事実としてのみつかんだもの。

なんだ、となりの息子か

なんだ太郎がやったんじゃないか
のか。

なんだとなりの子だったのか。また
太郎かと思っちゃったよ。

なんだ太郎かと思つたらとなりのむ
すこだったのでげんこつがしぜんに
さがった。

なんだとなりの子か!!二度とこんな
ことするんじゃないよ、おしおきだ。
おつ、となりのS君じゃないか。君が
やったのか?今度から気をつけない
といけないよ。

なんだ太郎かと思つた。太郎はこの
間もやったから今日こそはおころう
と思つたんだ——こんどから気をつ
けてね。

なんだ一郎君か:。やあ、太郎がま

たいたずらをしたのかと思つて:::
気をつけるんだよ。

おまえか。おまえは初めてだからゆ
るすが今度やたらただじゃおかん
ぞ。いいな今後気をつけるんだぞ。
いいんだ、いいんだ、うちの太郎も
よくやっているんだ。おさらの一まい
や二まいどうってことないよ。

あーとなりの口口ちゃんか、うちの
太郎がよくやるもんだから:::
あいいちばんいいはちだったのに。

だめじゃあないかそのわつたさらか
つてかえしなさい。わかつたな。
おやとなりのむすこか。じゃあなぐ
るわけにもいかないな。くやしけれ
どがまんしよう。

以上は、となりの息子に出会つたと
いう事実のみ把握したのにすぎない。
特に「なんだとなりの息子か。」と
簡単である。

次の「なんだ太郎がやったんじゃない
なかつたのか」も同じである。
そのあとに「太郎がいたずらしたの
かと思つて気をつけるんだよ」「お
しおきだ」「よくやるもんだから」
はその簡単な文にやゝ説明を加えて
いるにすぎない。この一群を事実を
事実としてつかんだ一つの型とする。

②事実を事実としてつかんだものその
二(扱い方によっては複雑さももち
得る)

太郎か。また大切なうえきばちまで
わりやがった。何度いったらわかる
んだらうなあ。

どうもまちがえておこつたりして、
どうもすみませんでした。

の二つは強気(前文)弱気(後文)
の両極端のようにみえるが、強気—
まちがいをそのまゝおし通す。弱気—
あやまって通す。どちらも心得て
やっていたら、気まずさを救う一種
として用いられ得る。共にかんりの
状況把握が出来ていることになるの
だが、この資料は、ただ単に結果と
して、そうなただけで、そこまで
考えは及んでいないとみて前の事実
を事実そのまゝに受けとっている①
と同種としたい。

③かるい「うそ」とうそのうわぬりそ
の一

太郎をみかけなかつたか 太郎がき
み、うちのまどをわつちやつたんだ
よ。

あつ君だったのか、太郎がまたガラ
スをわつてしまつたんだ。見つけた
ら教えてくれよ。こまつた子だ。

なんだとなりのむすこか。あんまり
うしろすがたが似ていたんでまちが
えてしまつたじゃないか。

この種はくくの部分で、本当はとな
りの息子がやったと思つているのだ
が、太郎のせいにして、つまり「す

りかえ」を行うことによつてハツの
悪さを救い、さらに、——の部分で
それを正当化するように説明をつけ
ている。三つ目の文はくくにあたる
語は略されているものとしてやはり
同種である。

④「うそ」とうそのうわぬり、その二
(弁解的)

なんだとなりの子か。太郎がな、ま
たわつてしまつたんだよ。こまつた
ものだ:::ぶつてやろうとしたがと
なりの子がみているからな—まあこ
ん回だけはゆるしてやろう。

くくの部分は②と同種のもがある
。ただあとにくる説明が、やゝ弁
解の領域に入りかけているとみる。

つまり、まずいことをやつたという感情
が働いているものとした。しかし、他
(となりの息子)に対してまずいと
いう感情を+のエネルギーによつて
補いたいのだが、充分補い得ず「ぶ
つて以下——ゆるしてやろう」と、
たんにつぶやいただけに終つた。

感情把握はできたのだが、それが充
分燃焼できなかったか、表現能力が
不足していたかである。

⑤状況判断に感情が入つて

お、太郎をみうしなつた。まつたく
にげ足のはやい子だな。まつたく困
つたもんだ。でも子どもはあんなも
んだ。しかたがない。家出されたら

大問題になってしまう。しかたがない。ゆるしてやろう。

これも④とみたいが、これは③にあたる部分がまったくなく、いきなり弁解のつぶやきに終始しているところ、前の事実に対してつまらぬ説明をつけずにおいたところが④の文より一段と感情把握がはっきりしていたとみてよいだろう。

だが、しかたがない二回、子どもはあんなもんだ。家出されたら大問題。というように、自分にいきかせていることがよく出てくる点、マイナスの感情を短かい文で処理しきれずだらだら書いたという感じを与え、すっきりしない分だけ、まだ感情把握に弱さをみせている。

⑥ “うそをつく”と“すりかえ”の間で

。なんだ君だったのか。おじさん、ちよっと人ちがいたもんでね ハハ
⑦ のように「人ちがい」ですりかえを行い、「ちよっと」「でねハハハハ」で、それぞれ他（となりの息子）に対して迎合している点が特筆されてよいのではないか。はっきりと「人ちがい」なのではなく、すりかえたようなすりかえないようなあいまいさを持って“てれ”“恥かしさ”“ひくつ”などの要素を含んでいる。感情把握が今までの④⑤より高度で

あるとみたい。

⑧ みごとなすりかえと弁解。ちがうよ。うちの犬だよ。ほらそこにいるだろ。またほんさいをこわして、ほんとに困る犬さ。

ちがうよ。で否定し、~~~~でみごとにすりかえと同時にうそをつくことよって“場”を切りぬけ、更に犬についての説明はかなり弁解（前述）として成り立っている。このように、何重にも反応し得るほどこの子は、ことばにあやつられて出てきた感情が複雑さを持ちことばをあやつり得る特性をもっているかと判断したい。とくにそのうそは、相手の意表をつき、クウの音も出ない状態にし得る完璧さであり、やゝ演出的効果といった要素も着目される。

⑨ 意表をつくとは その一

。やあ君かハハハ窓は元からわれているんだよ。太郎をちよっとからかってやろうと思っただよハハハハ、きょうは、エイブルフルだからね。

ハハハと笑いとばす演出、意表をつく、あきらかな“うそ”そのあとにくる 1 は弁解として充分通り 2 も弁解の役をはたしているが 1の方がずっと意表をついていておもしろい。意表をつくは⑦にも出て来たが、意

表をついておもしろく感じられるのは、感情の新しい分化のしかたを讀者に与えるからで、そこから考えても 1の方が 2のエイブルフルの“あたり前さ”をもたず、ずっとおもしろさをもっている。又書いた本人はそれを充分計算に入れていられるらしい。

⑩ 意表をつくとは その二（迎合）

。えっなんだって。はしつていくうちに私もつぼをわったって。これはこまった。それでいったいどのつぼだい。わっこれは大変だ。このつぼは先祖代々わが家につたわる大切なつぼだ。あゝどうしよう。もうもとはもどらないし：あゝ困った、困った。

——の部分は~~~~の部分の説明であるが、これが脚色である。すこしも困っていると思えない困ったである。言っている方も、聞いている方も、それがわかっていてすましている。といった落語的雰囲気を感じさせる。~~~~の部分は、そのもとをなしているわけでキーポイントになるわけだが、前述したうそ。それも見えないうそ。演技又はとぼけ。相手に対して迎合する精神、みずからを犯人とすることによって己をいやしめ他（となりの息子）に迎合する。といったものがみられ、感情の複雑性、

感情処理の多様性をみる事ができる。しかし⑩にくらべ演技をしてしきれない不満のこるのなげか。

⑪ 意表をつくとは その三

。あゝ〇〇君どうしたのですか。あの音はなんでもありません。~~~~のところでも意表をつく、それは問題にあった自分のことばの存在を否定することによって始める。

「あの音はなんでもありません」は同時に④より強い弁解の意をあらわしている。しかしただこれだけではやはりあとになにかこなくてはおかしい気がする。せっかくの切り出しに蛇尾に終った感じで惜しい。

⑫ 意表をつく その四（迎合）

。おじさんこのごろおかしいヨ。自分でやったくせに。

⑬ をもっと明瞭にした迎合、卑下の精神をあらわし、本人もそれを充分心得ているとみる。⑭には卑屈なものがなく⑮にはそれがあるというのもおもしろい。男女差か、陰と陽の感がある。

⑯ “はずかしさ”か

。あはしたないところをみせてすみません。「はしたない」の語のつかい方。近ごろはやった「はずかしながら」の語の使い方と同じか、とすれば、まじめだけどぶざけているといったものをこの一語に含めたのか。

女の子の記述だから、女の子の普段の生活の中で「はずかしいこと」の代表的いいまわし、(氣どってふざけながら言うとき使う)として用いたのか。論究しきれず。

⑬その他 せりふにならない。
。となりの子にこんなところをみせてはいけない。
以上二十九名

二では新聞記事の「ほめる」「けなす」のつながりの中から、言語操作の特性を探ってみた。やはり単純なものから複雑な要素のあるものへと追っていきたい。

⑩ほめることしかできないもの。

○さん よい歯をとりあげて、「みんな：：とつてもきれい」と一部分をとってほめた。

○さん 「あなたはいいいことばかりあったのですね。」

文そのまま、感にたえた単純だが暖か味のあるほめことば、けなすなんてとんでもないーといった感じ。

⑨感動なし

○さん だいたい入賞をやっとほめているといった感じ。けなすときも：：することを二度使い命令調。どちらもあまり感情の動きを出していない。

⑨事実を羅列し文末だけ変化させたもの

○さん 事実の羅列。にもなり、成績をおさめ、に入賞、にも優秀な成績をおさめたの強めのことばを用いてほめている。けなすとき、野球をとりあげ、あつどうされている。そのせいか進学率はおおく、スポーツは全然だめ、ガリベットのせい。とスポーツの不振をなげき、ガリベンは、成績のよさのうらがえしとして使われている。

○君

事実をていねいに羅列したあと、このかつやくぶりはちよつとまねできませんねと結びてほめ、けなすときも、羅列のたびにしかならない、しただけで、しかのびなかったとつけ、せいせきは大してのびないと結んだ。

○さん

事実の羅列の間に、こえるほどになりました、だけでなく、優秀校に入ったりとつないだ。同じように羅列だが、前述の○君より子供っぽい熱っぽさを感じさせる。しかし、ほめことばのみでけなすことは出来なかった。

○さん

になる、堂々、に入るなどの

○

ことばで結んでいる。わずかに堂々だけがほめことば、たんだんとしている。けなすときもいやいや、初めて、やつと、どうにか、すれすれを語尾につけている。同じような方法だが、ほめにくらべて、けなす方に語いが多く使われている。

優秀な成績をおさめた、連続で表彰された、：：にのぼると部分的にほめことばを用い、けなすときも、最下位、0.10%とさかんにけなしているが、一部事実とちがう点がある。(いそいで書いたと本人はいつているが、そのためのとりがえか)しかし、文中にそれぞれほめことば、けなすことばをさしはさんでいるので、書き方としてこの項に入れた。

④事実をまとめて(けなす方に工夫して)

事実をまとめて、一年一年たつにつれてよく参加、年々多くなつてよい、と明瞭なほめ方、けなすとき、よいことばかり書いてほめてもらおうとしていると、他はどうした、という意味か。けなす事実がないので裏がえしたのか。や

、皮肉にもとれるけなし方である。前者と同じようなほめ方、しだいにふえ、じょうぶな歯の人が多くとつてもよいである。けなすとき、一位や二位じゃなければ、せめて三位まではとけなす方に本音がありそう。

。事実をやゝまとめて並べている。
：ふえ：：入賞もふえ：：をこえるまでできていると③に近いほめ方。けなすとき、よく参加しているが同じものばかりだ、一位ということもなくと力点がけなす方にきている。

資料をならべ各方面で大変優秀な成績をおさめているとほめ、けなすときは進学率をほめそれにつれて毎年参加していた野球大会には出場しなかった勉強だけでなく、体も：：と欠点を拾いだしていた。

⑤未来へ向けて

。歯をとりあげ、参加し、入賞し、もつとよくなるでしょう、と小さい範囲ではあるが未来へ広げていくことよって効果をあげようとしている。けなすとき、野球をとりあげ、参加したが、次に参加しなかった、と時間の経過をもち出し、未来へ向って、当然努力すべきものを怠ったと入賞しなければ次にがんばる希望ももてるののに

文で痛烈に批判している。

。進学率をとりあげ、いよいよなる中学、来年はどのような進学率のぞめるか、と未来まで推して手ばなしのほめよう、けなす方は、野球をとりあげたが、参加したが結果はどうした、とか、まけたのかとか資料の中から学校をけなすのではなく、資料をけなしている。

。事実をならべこの三年間いろいろな大会に参加、進学率については、このふんでいくともっと高まるであろう、と未来へつないだほめ方けなすときも羅列であるが、参加したもののなかなかに入賞できないもつとつよくないものか、と未来へもつていっている。

⑥ 疑い

。こんなに高いのはほかにないだろう、と進学率だけを問題にしてけるけなすときよい歯、音楽コンクールに入ったりしているがこれだけが特質であろう。ほかのは、けがすわるいところがあるのでは、とかくられた事実があるのではないかという疑い。平たくいえば難くせをつけているという感じがする。この子の進学に対する関心の深さと、それ以外のものに対する不信心、生活の経験からその中にかくされ

大部分のあることを心にのこしているのか（うらみまではいかないが）

。羅列ではあるのだがたたみこむ調子のよさでかゝれている。ひじょうによい、率も高く、をこえているといった語でほめている。けなすとき「参加」をとりあげ、鼻にかけすぎ、もつと多く参加と暗に「参加」の批判か、いいことはっかり書いて、事件はなかったのか、それだけしかないのか、と書かれていないことに疑いをもっている。

⑦ 条件を自らもうけて

。野球については、とても強い学校だけが数多く参加の二つの条件を与えて強めたらうで、15校内に入ることとはとても優秀。と結んでほめている。

またけなすときは、条件を89%という数値を用い、しかも高校といつてもいろいろあり程度の低い学校もある、とその数値の価値を低めようと工夫している。

ほめ、けなしまつたく同一の手法である。

。事実をまとめ、年ごとに成績があがってきている。とほめ、その理由を、努力や協力があつたからである。と多数の手がらとする条件

をつけて、けなすときこの多数を問題にし、ある一定の人しか出れないときめつけ、いい高校に入れてもそれでいい人間になるとはかぎらないといつも一部ではなく一般の人に目を向けている。

⑧ うらみと思わせるもの。

。なにをやってもよい成績で、たのもしい、と全面的に認めたかこうでほめている。反面、けなすとき、このことが頭から離れないとみえ、いまのうち優秀でも、他の学校がおいついてくるからいまに負けてしまふ、と事実からの批判ができず、とんでもない（資料にない）理由をつけてピントのはずれたものをもってきたので、うらんでいるような印象を与える。

。事実一つ一つに、よくそこまでまわった、よほどの苦勞と練習が実つたからだ、よほどの努力があるにちがいない、と非常な熱心さでほめている。そしてけなすときはその裏返し、としたつとよいことを認め、その学校以上のものをもつてきて、よくそんなにえばれるな、：：：ならえばれるかもしれぬが、よくそんなにぬけぬけど、えばつていいのか、とえばれるを重ねたため、うらんでいる、い

いがかかりをつけている。といった

感じがする。よすぎるといふ意識があるときむりにけなすところいう文になるのだろうか。この二名のようにピントが合わない感じがくり返されるとうらんでいるといつたものになるという例えとなる。

⑨

。めいよあることだし、さんかすることにいぎがある。と事実をいちいちのべずいきなりほめている。けなすとき、進学したつて勉強がきらいなら金がむだになる、とかいかなくても、総理大臣になれるかもしれない、とか、進学をとりあげてとくに熱心にけなしている。この子はスポーツなどをよしとし、進学がきらいなのか、べんきょうがきらいなのか、かなりこたわつた書き方をしている。

⑩ 一途なほめ方

。良いことが重つている、学校長もニコニコ。「しらががへつたわい。」などといっている。高校進学もふえている。来年はもつと賞などももらえることまちがいないと未来へも拡げ、一つも事実を羅列することなくほめている点が、手ばなしの気分が充分出ている。ニコニコとが「しらががへつたわい。」とか、来年はもつと：：：ま

ちがいなし。などは語調を変え、と、皮肉にもなりかねないが、この子はごく素直に一途にほめているのである。その子がけなすとき、進学については、へんな学校に入った人が多いということです。大会については、そういう人はばかりではない、と事実の一つ一つこたえていて、うらの方を読んでいこうという姿勢はあるが、ほめ方を裏返した皮肉のようなものを期待したが、けなす方はほめにくらべ平凡におわった。

⑩ 事実には無駄なく常識的

。：も強くて、：もうまくて、：多くて、なんにでも参加するよい学校と全面的にほめあげ、けなすとき、入賞はしないし、ほかの部もさかんではない、と当然の批判である。

⑪ ⑨に準ずる意表をつくほめ方

。資料の説明ゆきで、とにかくいい、「はいるならここ」といいたいのが、決まった地域の人ははいれないのがさんねん。とすごいほめようけなすとき進学率をとりあげ、公立高校ではなくて私立の高校かもしれないと痛烈ではあるが、ほめるときに全面的であったものが、けなすときは、部分になったのは、ほめる方が状況をよくつかんでい

るということだろうか。それにしてもかなり意表をつく表現ができているとみたい。

⑫ けなす方に力点をもって

。羅烈の中に年々高く、二年目にして入賞、向上心にもえた、などのことばでほめている。けなすとき10多の子どもが進学をあきらめているのは悲しい。一部の人たちだけではつまらないと少数の部分、影の部分にスポットをあてている。この子にとつては、ほめは本音でなく、あとの部分に力点があることがはっきりと感ぜられる。

。進学とその他のことをまとめているが、進学者にはいい学校といえるだろうの語は、この子がひかえ目な子だからこれでほめことばとしていっているのだろうが、やゝ批判的なにおいを感じる。そしてけなすとき、型にはまった教育、コンクールについて、毎年おなじようなことをくり返している、変化がない、と痛烈であることから、やはり前文は、ヒハンのにおいの方が強いのではないかと考える。

⑬ 拡散思考型

。資料を並べたて最後に、模範的学校であるとほめ、けなすときは、それをうけて、そのように優れているから、このままでは頭が体よ

り大きくなり、重くなり、はげあがってしまうのではなからうか、とにかく今のうちに手を打つ必要があるだろう、と資料から推して考えた。拡散思考型である。観点はみごとに一つ。

⑭ みごとな、活殺自在

。などにも、：の方も優秀であり、などもまことに優れた、とべたほめにほめておいて、けなすとき、いきなり、ほんとうにこの学校はなにをやってもだめな学校だ、と切りつけ、ただ参加しているだけでめったに賞をとれないとだめおしし、ととても三年に一回ぐらい入賞するだけで、そんな時は、もう学校中大さわぎになるといっただめな学校。と徹底的にけなしつけている。今までの児童も、ほめすぎればそれに、けなす方に力点があればそれに、気持がひきずられている例ばかりであったが、この子は、それぞれをみごとに処理している、みごとな約変ぶり。

考察

問題一の方がやゝとりつきやすさを持つとみえ、わりあい自由に書いている。

①、②が例外であるほかは、多少②的な尾をのこしているとしても、

「うそ」からはじまってるうそを説明しはじめそれが弁解となりつぶやきばやき、ひくつ、てれ、演技など資料の中で説明したように多くのものができてきている。ただ⑤までは一つ一つの要素からみるとりあげるべきものはあるがどれも部分であるが⑥をはさんで⑦⑧⑨⑩あたりは、もう部分ではなく全体として問題一の意図を充分満足させていてみごとである。

問題二については前にもかいたように冷静さを要求されるが、厳密に言えば最後⑭の約変のみが問題の意図を満足させることができたのであって以下は不十分であったといえようしかし部分でみるならば見出しをつけたようなよさがあったということがいえる。とくに「うらみ」の存在は一つの立場のありようとして意識にのこしておきたいことの一つである。

それにしても、「二つの立場を同時にとる」ことのむずかしさ。問一であれだけ活躍した児童のほとんどが一つの立場にひきずられはなれることが出来ずにいること。頭がいいと自他ともに思っている児童が批判の方によりひきずられていること。このクラスのひとつがすなおに長所を長所とみて二重構造をもつことを

みぬけないことを、「素直」としてよろこぶべきか。

問一で⑦⑨をかけた子、問二で⑭をかけた子、について考えてみるならば⑦では「すりかえと弁解」といった方法で虚構の世界に入っている。虚構についていうならば、感情を忠実に処理するにはものを二重にみようとすると姿勢・演技することによって感情の世界を作ろうとする、つまり虚構となる。彼は、感情の処理のためにどうしても虚構が必要であるということも充分しているとも見える。とくに事実を一つも出さないとこゝろでは、事実には忠実であればあるほど感情を正しく表わすことのできないこと。事実を把握し、しかも事実から離れたとき感情を正しく伝えることができる、ということを示している。これは問二⑭の子の場合でも、ほめけなす、それぞれ足をひっぱられずに独立してほめ、けなすことが出来たということでも事実を把握し、事実から離れたとき：正しく伝え得ることを証明しているこゝらあたりが最終の段階かとも思われる。

。実験対象

大正小学校六年二十九名

(横浜・大正小・教諭)

児童の言語生態研究趣意

国語教育の実践と研究は、日日月ゆるがせにできない永遠の基礎的課題であります。近来、言語活動を重視し言語能力の増進を要望される時運に従い、一見、国語教育の実践と研究は活発さを加えたかに見えますが、国語教育は技能的となり、読み、書き、話し聞く三領域に分割された言語生活形態の学習を専らとする風潮さえ生んで参りました。

われわれは成育しつつある子どもの言語生態を、正確に見届けることを、何よりの国語教育の基礎に据え、そこから出発すべきであります。遅ればせながら、感情・思考及び意識の発達とともにある子どものことばの実態を、調査、研究して、子どもの側からの発言を世に問いたいと思ひます。

思えば、子どもの言語生態とも言ふべき基礎資料を得ることなしに、国語教育の目的と方法が論じられすぎました。また、われわれ現場人が、それらの基礎資料をどれほど整えて子どもに接していたでありましょう。国語教育の目的と方法及び実践の確立に資すべき、最初の条件であつたと思うのであります。われわれは相互に連絡協力して、この調査、研究を進め、小冊子といえども、発達途上における子どもの心とことばとの成長並びにその明暗を正確に写しとつた貴重な資料を収集して、広く斯界に頒布することにいたしました。

昭和四十三年四月

児童の言語生態研究 同人 一 同

主宰 玉川大学教授 上原 輝 男

顧問 玉川大学教授 日名子 太郎

入会の御案内と投稿規定

本誌は、幼稚園・小学校の現場人が現場でつくる雑誌ですから、幼・小の先生方ならどなたでも正会員となれます。

現場での御報告・御研究をお寄せ下さい。四〇〇字詰二十五枚以内。ただし、子ども中心のものであるのが本誌の特徴です。採否は編集部にお任せ願ひます。

ほかに研究会その他を計画致します。

本誌購読者の方々（一年分まとめ）を会友になって頂きますが、原稿掲載は正会員に限ります。

人会御希望の方は

- ① 芳 名
- ② 御 住 所
- ③ 勤 務 先
- ④ 担 当 学 年
- ⑤ 本年度使用の国語教科書使用出版社名

を必ずお書き下さり、本年度会費（千円）を添えてお申し込み下さい。

(事務局)